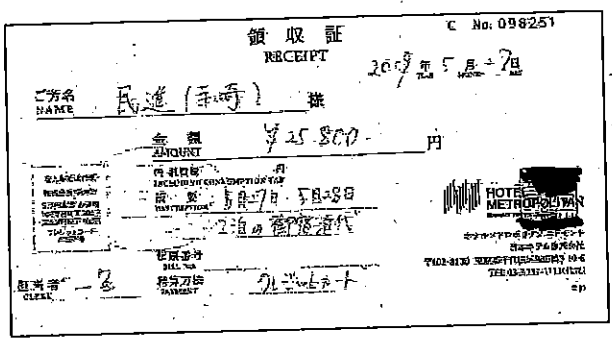
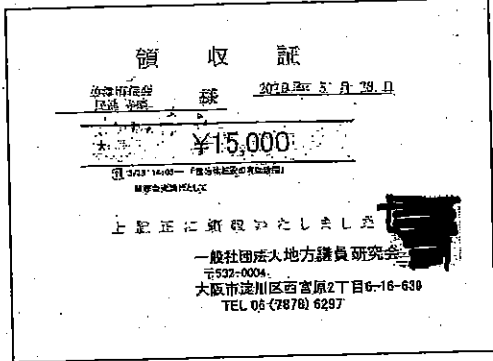
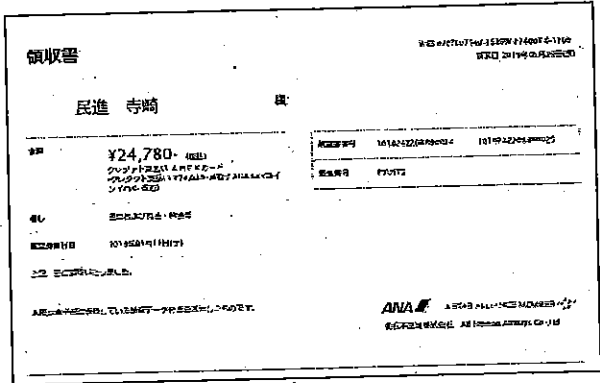


政務活動費出金票

No. 3

出金日	令和元年 5月 27日		
項目	①調査研究費	②研修費	③広報費
	④広聴費	⑤要請・陳情活動費	⑥会議費
	⑦資料作成費	⑧資料購入費	⑨人件費 ⑩事務所費
摘要	研修会及び講演会聴講 (地方議員研究会・日本弁護士会・WTP)		
金額	64,520円 /		
支出内訳	受講料 15,000円 交通費 23,720円 (JR相当分) 宿泊費(2泊) 25,800円 計 64,520円		
領収書	詳細は政務活動費旅費計算書		



本紙に収まらないときは、適宜別紙を作成のこと

承	会派会長印	経理責任者印
認		

氏名 寺崎 孝洋

[テキストを入力]

政務活動費旅費計算書

会派名



民進

金額 49,520 円

(1人あたり 円)

用務	研修会及び講演会 聴講					
旅行先	東京都内 (東京弁護士会館、早稲田大学、東京国際展示場)					
旅行期間	令和 元年 5月 27日～令和 元年 5月 29日 (2泊 3日)					
種別	区 間		乗車料金	急行料金	特別車料金	合 計
鉄道賃	自 富山空港	至 羽田空港	自己都合で前日より富山市内用事のため富山空港より上京。当日の黒部⇄東京の新幹線料金で計上			円
	自 羽田空港	至 富山空港				23,720 円
	自 駅	至 駅	円	円	円	0 円
	自 駅	至 駅	円	円	円	0 円
	自 駅	至 駅	円	円	円	0 円
車 賃	区 間		借り上げ料金	燃料費	高速料金	合 計
	自	至	円	円	円	円
宿泊料	2 / 泊分				25,800 円	
その他(駐車料金等)	(内訳)				円	
備考						
合計	49,520 円					

旅行議員氏名 寺崎 孝洋

承認印	
会派会長	経理責任者
	

[テキストを入力]

2019年6月5日

研修報告書

作成者 寺崎孝洋

日本弁護士連合会主催 研修会

「第5回法化社会における条例づくり」
—法化社会における弁護士の地方議会とのかかわり—

日時 2019年5月27日(月) 13:00~16:30

場所 弁護士会館2階講堂 東京都千代田区霞が関1-1-3

出席者 寺崎孝洋

次第

講演1

「地方議会のカー議会改革の第2ステージの実現—」

江藤敏明 氏 山梨学院大学法学部・大学院社会科学研究科教授

講演2

「議会の政策形成能力強化のための補佐体制について」

矢島真知子 氏 前横須賀市議会議員

報告

「地方議会における政策立案の実情」

清水克士 氏 大津市議会局次長

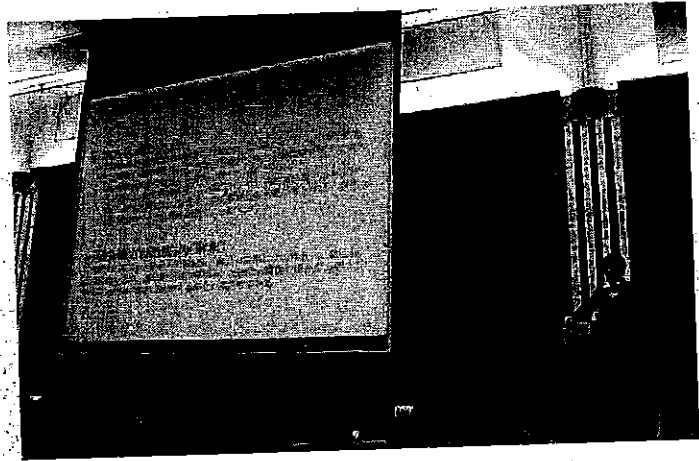
パネルディスカッション

「地方議会の活動への弁護士の関与」

矢島真知子、清水克士、帖佐直美、伊藤義文

所感、考察

各講演、報告を総括的に所感・考察を如何に記す。詳細な講演内容は別紙に添付する資料の通りであり報告内容には記さないが、どの講師も次のキーワードが共通するのではと思った。その言葉は「地域経営」「自治体経営」である。



2000年に施行されて「地方分権一括法」からは地方(地方自治体)の自由度が高まると同時に責任が重くなった。しかし、今なお過去からの流れである国、県、市町村という序列は存在していると同時に、財源は国・県頼み的な考え方はまだまだ拭えない状況である。今回の勉強会の本質は「地方よ、自治体よ、自立せよ！」ということであり、その処方箋(具体例)を提示されと思っている。

処方箋の内容を簡単に言うと

地方議会及び地方自治体は

- 法律、制度を熟知するべし
 - 議会基本条例などを制定し、自立・自律するべし
 - 行政主導から、住民参加型に転換するべし
 - 「あれもこれも」から「あれかこれか」の選択と集中に転換すべし
- 等、これらの事を早急に推し進めていく必要がある！と再認識させられた。

以上

2019年6月5日

研修報告書

作成者 寺崎孝洋

地方議員研究会 研修会

「自治体施設の有効活用」 —新たな地域のためのヒント—

日時 2019年5月28日(火) 14:00~16:30

場所 早稲田大学 東京都新宿区早稲田鶴巻 516-1

出席者 寺崎孝洋

内容

内容は、別紙添付資料を参照

所感、考察

昨日の、弁護士会研修会と似た言葉がよく出てきた。その言葉は「行政経営」であり弁護士会研修での「地域経営」「自治体経営」と同様な意味である。

講義の中では、公共施設マネジメントはやっていて当然、と

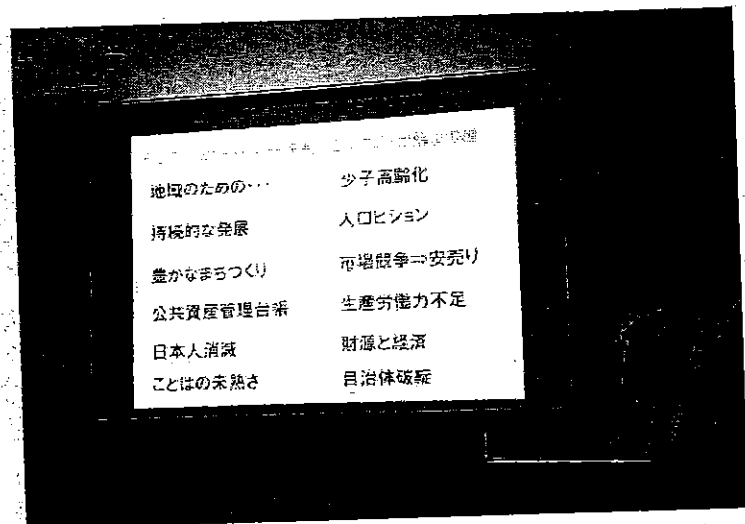
うい考えの中で話をされていたのだと思うが、それを行う上での注意点について述べられていたのが印象に残っている、と同時に重要な事であると感じた。

それは、

- 公共施設マネジメント(資産管理)を行うときには人口ビジョン(人口動態)とのリンクが必要・重要
- 作る側(行政)の理論・見方ではなく、使う側(市民)の理論・見方が大切
- 公共施設マネジメント等は行政改革の一環であるが、行政マンが行うと内容が疎かになる

などであり、根本は「意識改革」(行政も住民も)が必要であると感じた。

以上



2019年6月5日

研修報告書

作成者 寺崎孝洋

WTP(ワイヤレス・テクノロジー・パーク) 2019 セミナー

日時 2019年5月29日(水) 11:00~11:30
場所 東京ビッグサイト 東京都江東区有明3丁目11-1
出席者 寺崎孝洋
演題 5G時代に向けた電波政策最新動向(総務省)
講師 総務省 総合通信基盤局 電波部長 田原 康生 氏

内容

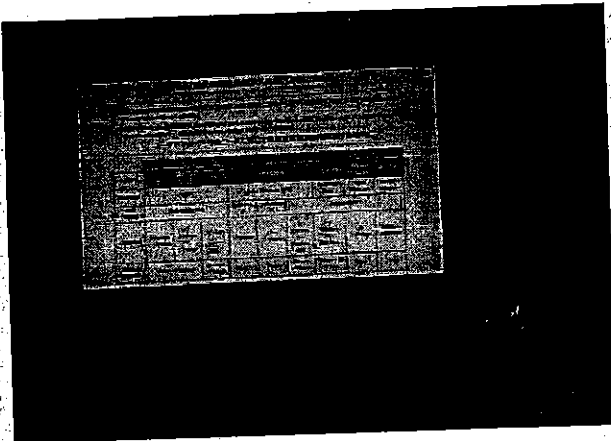
会場は、5Gの技術・動向についての講演が行われるとあり、予定していた聴講者を上回る人が会場に駆けつけ私を含め立ち見で聴講する人が多数いるという盛況ぶりであった。(聴講者500名程度?)



まずは、電波(携帯電話)

の変遷(1G→2G→3G→4G)へと変化してきて、それに伴い、デジタル化及び高速・高容量へと変化してきたことや、音声のみならず画像、動画などのコンテンツが広がってきた事の話があった。5Gの特徴は、

高速、低遅延、多接続などの特徴があること。また、5G=スマートフォンという感もあるが、それ以外にも、バーチャルリアリティ技術を使い、遠隔手術の可能性や人が移動しなくても、ネット上で会議が出来る、IoTとの組合せなどの紹介がされた。そして5G技術は2020年から開始しすることも述べられていた。



[テキストを入力]

所感、考察

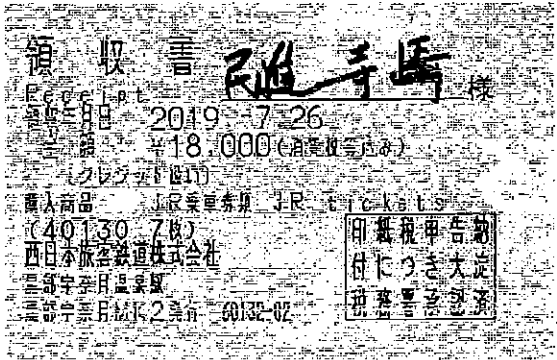
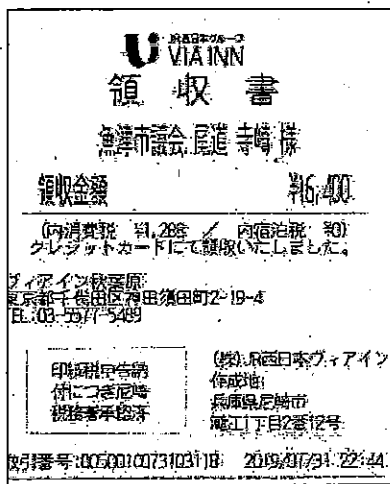
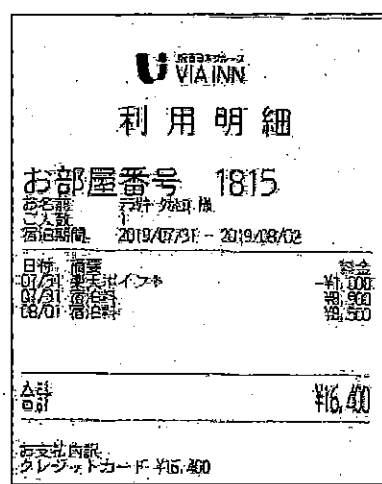
まずは、先にも少し触れたが「超満員」会場があらわすように、5G 技術・動向が大変注視されていることが改めて感じさせられた。

4大キャリアといわれる、au、docomo、softbank、楽天に電波の割当を行い、その条件は全国 47 都道府県にもれなく電波を飛ばさなければならないらしい。という事は、回線容量の太さの問題はあるが、とりあえず 5G を使えない都道府県は無いという状態でのスタートである。その後の 5G のためのインフラ整備は、各地でどのくらいのニーズがあるかにかかってくると思われる。単なる、スマートフォンでの活用だと人口密度が高い都市部を優先にインフラ整備がされ、都市と地方の情報格差はますます拡大することが想定される。そうならないためにも地方・地域での 5G 技術の活用方法、生活の利便性向上や地域内での産業を活性化する活用法を考えないと情報格差だけでなく、いろんな面での格差が生じかねないようにも感じた。

以上

政務活動費出金票

No. 5

出金日	令和 元年 7月 19日		
項目	①調査研究費 ④広聴費 ⑦資料作成費	②研修費 ⑤要請・陳情活動費 ⑧資料購入費	③広報費 ⑥会議費 ⑨人件費 ⑩事務所費
摘要	研修会 (日本生産性本部・マニフェスト研究会)		
金額	56,496 円		
支出内訳	マニフェスト研究会 10,000 円 / 日本生産性本部 10,800 円 / 宿泊 (7/31・8/1 2泊) 16,400 円 / 交通費 18,000 円 (おとなび) 振込手数料 1,296 円 / 計 56,496 円 /		
領収書	詳細は政務活動費旅費計算書 		
			

本紙に収まらないときは、適宜別紙を作成のこと

承	会派会長印	経理責任者印
認	寺崎	小坂

氏名 寺崎 孝洋



[テキストを入力]

金額 34,400 円

(1人あたり 円)

用務	研修会(日本生産性本部、マニフェスト研究会)					
旅行先	東京都内 (千代田区日本生産性本部、東京国際展示場)					
旅行期間	令和 元年 7月 31日～令和 元年 8月 2日(2泊 3日)					
種別	区 間		乗車料金	急行料金	特別車料金	合 計
鉄道賃	自	至				円
	自	至				18,000 円
	自	至	円	円	円	0 円
	自	至	円	円	円	0 円
	自	至	円	円	円	0 円
車 賃	区 間		借り上げ料金	燃料費	高速料金	合 計
	自	至	円	円	円	円
宿泊料	2 泊分				16,400	円
その他(駐車料金等)	(内訳)					円
備考	鉄道賃18,000円については「おとなび」					
合計	34,400					円

旅行議員氏名 寺崎 孝洋

承認印	
会派会長	経理責任者
	

[テキストを入力]

政務活動費出金票

No. 5 - 1

伝票番

預金払戻請求書・預金口座振替による振込受付書 (兼振込手数料取扱書)

口座種別 当座 01年 07月 19日

振込先 振込先名 振込先住所 振込先電話番号	振込先 振込先名 振込先住所 振込先電話番号	振込金額 10,000 円
振込先 イブニングバンク マネージメントバンク 様	振込先 イブニングバンク マネージメントバンク 様	振込手数料 648 円
振込先 090-3886-8157	振込先 イブニングバンク マネージメントバンク 様	振込手数料 648 円
振込先 イブニングバンク マネージメントバンク 様	振込先 イブニングバンク マネージメントバンク 様	振込手数料 648 円

※振込規定に記述事項が不備であった場合は、請求者のために振込が滞る場合があります。この場合、振込手数料は請求者の負担となります。また、請求者の住所等が変更された場合は、振込先住所等に変更する必要があります。

印紙控申告納付に付金戻振込者承認済

受付印
01. 07. 19
北国銀行
支店長印

振込規定(抜粋)

伝票番

預金払戻請求書・預金口座振替による振込受付書 (兼振込手数料取扱書)

口座種別 当座 01年 07月 19日

振込先 振込先名 振込先住所 振込先電話番号	振込先 振込先名 振込先住所 振込先電話番号	振込金額 10,800 円
振込先 イブニングバンク マネージメントバンク 様	振込先 イブニングバンク マネージメントバンク 様	振込手数料 648 円
振込先 090-3886-8157	振込先 イブニングバンク マネージメントバンク 様	振込手数料 648 円
振込先 イブニングバンク マネージメントバンク 様	振込先 イブニングバンク マネージメントバンク 様	振込手数料 648 円

※振込規定に記述事項が不備であった場合は、請求者のために振込が滞る場合があります。この場合、振込手数料は請求者の負担となります。また、請求者の住所等が変更された場合は、振込先住所等に変更する必要があります。

印紙控申告納付に付金戻振込者承認済

受付印
01. 07. 19
北国銀行
支店長印

振込規定(抜粋)

[テキストを入力]

2019年7月31日

研修報告書

作成者 寺崎孝洋

公益財団法人 日本生産性本部 研修会

「総合計画 2.0 の策定と運用に向けて」

日時 2019年7月31日(水) 13:00～17:00
場所 日本生産性本部ビル 千代田区平河町
出席者 寺崎孝洋

内容

内容は、別紙添付資料を参照

所感、考察

セミナーは、生産性本部の佐藤亨課長の基本講演に始まり、滝沢市・小林市多治見市それぞれの職員からの報告及び全員でのパネルディスカッションであった。

総じて言えるのは、総合計画策定にあたっては担当者の熱意が（形骸化としない）計画の良し悪しを決定付けるのだろうと感じた。

今後魚津市が総合計画策定にあたって参考となると感じたのは多治見市の策定方法・策定理念であった。

- 首長任期と計画期間の整合性
- 計画期間内事業の明確化
- 責任所在の明確化及び実施計画の策定と公表

が特徴であり、形骸化（作ったら放りっぱなし）とならないようにしているのは参考としなければならないと感じた。

また、計画期間内での議員間討議により議会より提案を受け当局が基本計画の追加・修正議案を上程するシステムが確立している。このシステムも議会として導入検討する必要があると感じた。

2019年8月2日

研修報告書

作成者 寺崎孝洋

マニフェスト研究会

「全国地方議会サミット 2019

チーム議会が地域をより良くする」

日時 2019年8月1日(木)～2日(金)

場所 東京ビッグサイト 東京都江東区有明

出席者 寺崎孝洋

プログラム

< 1日目：8月1日(木) >

【基調講演】「なぜ今“チーム議会”が必要なのか」 13:00～13:20

▶北川 正恭氏 (早稲田大学名誉教授、元三重県知事)

【パネルディスカッション】「NHK地方議員2万人アンケートのホンネ」
13:20～14:20

▶江藤 俊昭氏 (山梨学院大学教授)

▶杉田 淳氏 (NHK報道局選挙プロジェクト副部長)

▶久保 隆氏 (NHK報道局選挙プロジェクト記者)

【パネルディスカッション】「チーム議会に職員だからできること」 14:20～
15:20

▶清水 克士氏 (滋賀県大津市議会局次長)

▶小原 昌江氏 (岩手県北上市議会事務局議事課長)

▶岩崎 弘宜氏 (茨城県取手市議会事務局次長)

▶小林 宏子氏 (東京都羽村市議会事務局長)

【講演】「チーム議会の視点から見る議会・議員の役割」 16:20～17:20

▶片山 善博氏 (早稲田大学教授、元総務大臣)

【総括】 17:20～17:30

▶北川 正恭氏 (早稲田大学名誉教授、元三重県知事)

< 2日目：8月2日（金） >

【先進事例報告】「チーム議会の実践と課題」 9:30～10:30

- ▶千葉 茂明氏（月刊「ガバナンス」編集長）
- ▶早苗 豊氏（北海道芽室町議会議長）
- ▶諸岡 覚氏（三重県四日市市議会議長）
- ▶梅村 均氏（愛知県岩倉市議会議長）

【パネルディスカッション】「チーム議会の視点から首長との関係を考える」 10:30～11:30

- ▶北川 正恭氏（早稲田大学名誉教授、元三重県知事）
- ▶谷畑 英吾氏（滋賀県湖南市長）
- ▶越田謙治郎氏（兵庫県川西市市長）
- ▶上村 崇 氏（京都府京田辺市長）

【先進事例報告】「チーム議会の視点から選挙のあり方を考える」 12:20～13:40

- ▶中村 健氏（早稲田大学マニフェスト研究所事務局長）
- ▶則武 宣弘氏、中原 淑子氏、林 敏宏氏（公明党岡山市議団）

【パネルディスカッション】「チーム議会の視点から市民との関係を考える」 13:40～14:30

- ▶佐藤 淳氏（青森中央学院大学准教授）
- ▶瀧野 良枝氏（長野県飯綱町議会議員、元飯綱町議会政策サポーター）
- ▶原口佐知子氏（静岡県牧之原市 市民ファシリテーター）
- ▶田口 裕斗氏（岐阜県可児市議会高校生議会、現立命館大学3年）
- ▶竹下 修平氏（愛知県新城市議会議員、元新城市若者議会議長）

【パネルディスカッション】「国会は地方議会をどう見ているか」 14:45～15:45

- ▶廣瀬 克哉氏（法政大学教授）
- ▶石破 茂氏（衆議院議員、元地方創生担当大臣）
- ▶稲津 久氏（公明党 衆議院議員、党地方議会局長）
- ▶逢坂 誠二氏（衆議院議員、元ニセコ町長）

【総括】 15:45～16:00

- ▶北川 正恭氏（早稲田大学名誉教授、元三重県知事）

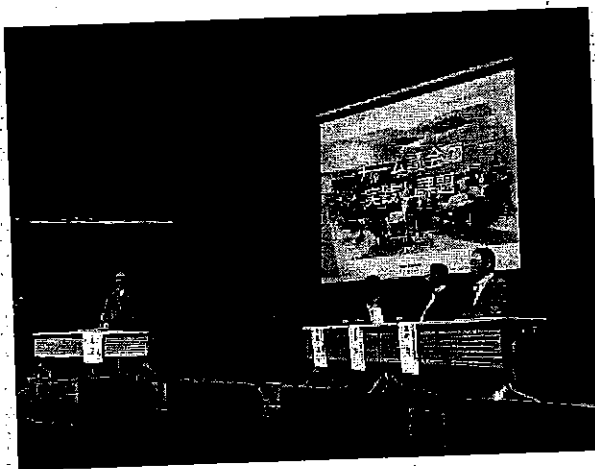
所感・考察

本サミットは2日間の開催で、盛り沢山の事例や課題が投げかけられた。その中で当たり前ではあるが、一議員の意見では行政は動かない、チーム議会として纏まらなければ（合意形成しなければ）ならないという事が随所で述べられていた。が、現状そうはなっていない議会が殆どである。では、どうしてゆけば「チーム議会」が機能するかであるが、サミットでの発言を聞いていて次の事が大事であり、今後実行に移して行かなければならないと感じている。



- 議会改革は目的ではなく「住民福祉の向上」「住民の満足度向上」であり議会と住民の距離を縮める事である
- 議会終了後の議会報告会ではなく、議案が出た時点で議案に関する意見聴取する会に変更していく
- 議会事務局は庶務的工作ではなく、共に考える仲間である
- 議会の最大の仕事は「決める事」である
- 例規集は行政管理ではなく、決定者である議会が行うものである

等々





まだまだ沢山の事が述べられ・提言されたが、議会を本当の意味で機能させるためにも議員自身が制度・仕組みを理解し、これらの事を実践、取入れながら「税の配分機能」「住民の口利き」の議会から脱皮する必要性を感じさせられた。そうしないと地方創生などは程遠いとも感じた。

政 務 活 動 費 出 金 票

No. 8

出 金 日	令和 元年 9月30日
項 目	①調査研究費 ②研修費 ③広報費 ④広聴費 ⑤要請・陳情活動費 ⑥会議費 ⑦資料作成費 ⑧資料購入費 ⑨人件費 ⑩事務所費
摘 用	北朝鮮に拉致された日本人を早期に救出する富山県地方議員連盟
金 額	2,000円
支出内訳	北朝鮮に拉致された日本人を早期に救出する富山県地方議員連盟会費
領 収 書	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p style="text-align: center;">領 収 書</p> <p style="text-align: center;">¥ 2,000 -</p> <p style="text-align: center;">ただし、令和元年度北朝鮮に拉致された日本人を早期に救出する富山県地方議員連盟会費として富山県市議会議長会を通して受け取りました</p> <p style="text-align: center;">令和元年9月30日</p> <p style="text-align: center;">寺崎 孝洋 殿</p> <p style="text-align: right;">北朝鮮に拉致された日本人を早期に救出する富山県地方議員連盟会長</p> </div>

本紙に収まらないときは、適宜別紙を作成のこと

承	会派会長印	経理責任者印
認		

氏 名 寺崎 孝洋



[テキストを入力]

政 務 活 動 費 出 金 票

No. 9

出 金 日	令和 元年 8月 22日
項 目	①調査研究費 ②研修費 ③広報費 ④広聴費 ⑤要請・陳情活動費 ⑥会議費 ⑦資料作成費 ⑧資料購入費 ⑨人件費 ⑩事務所費
摘 用	日中友好富山県地方議員連盟会費
金 額	3,000円
支出内訳	日中友好富山県地方議員連盟会費
領 収 書	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p style="text-align: center; font-weight: bold;">領 収 書</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.2em;">¥ 3, 0 0 0 -</p> <p style="text-align: center;">ただし、令和元年度日中友好富山県地方議員連盟会費 として</p> <p style="text-align: center;">令和元年8月22日</p> <p style="text-align: center;">魚津市議会議員 寺崎 孝洋 殿</p> <p style="text-align: right; margin-right: 20px;">日中友好富山県地方議員連盟 会長 宮本 光明</p> </div>

本紙に収まらないときは、適宜別紙を作成のこと

承	会派会長印	経理責任者印
認		



氏 名 寺崎 孝洋

政 務 活 動 費 出 金 票

No. 1 0

出 金 日	令和 元年 9月30日
項 目	①調査研究費 ②研修費 ③広報費
	④広聴費 ⑤要請・陳情活動費 ⑥会議費
	⑦資料作成費 ⑧資料購入費 ⑨人件費 ⑩事務所費
摘 用	富山県日韓友好議員連盟
金 額	2,000 円
支出内訳	富山県日韓友好議員連盟会費
領 収 書	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p style="text-align: center;">領 収 書</p> <p style="text-align: center;">¥ 2, 000 -</p> <p style="text-align: center;">ただし、令和元年度富山県日韓友好議員連盟会費 として</p> <p style="text-align: center;">令和元年9月30日</p> <p style="text-align: center;">寺崎 孝洋 殿</p> <p style="text-align: right;">富山県日韓友好議員連盟会長</p> </div>

本紙に収まらないときは、適宜別紙を作成のこと

承	会派会長印	経理責任者印
認		

氏 名 寺崎 孝洋



[テキストを入力]

政 務 活 動 費 出 金 票

No. 1 4

出 金 日	令和 2年 1月14日
項 目	①調査研究費 ②研修費 ③広報費 ④広聴費 ⑤要請・陳情活動費 ⑥会議費 ⑦資料作成費 ⑧資料購入費 ⑨人件費 ⑩事務所費
摘 用	地方議員研究会 「ICT技術の街づくりへの活用」 受講
金 額	37560+15000 52, 560円
支出内訳	地方議員研究会受講料 15,000円 交通費(東京都内) 24,160円 宿泊費(東京都内) 13,690円 内 13,400円
領 収 書	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">領 収 書</p> <p style="text-align: right;">氏名 <u>寺崎 孝洋</u> 様</p> <p>Receipt 領収年月日 2020. -1. -9</p> <p>金額 ¥24,160 (消費税等込み)</p> <p>上記金額確かに領収いたしました</p> <p>購入商品 JR乗車券類 JR tickets (50173, 4枚)</p> <p>西日本旅客鉄道株式会社 黒部宇奈月温泉駅 黒部宇奈月MK1発行 60174-01</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; text-align: center;"> 納 告 申 報 紙 税 付 大 淀 認 務 署 承 認 済 </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p style="text-align: center;">領 収 証</p> <p style="text-align: center;">氏名 <u>寺崎 孝洋</u> 様 2020年1月14日</p> <hr/> <p style="text-align: center;">★ ¥15,000</p> <p style="text-align: center; font-size: small;">(1) 14 10 69 - 「ICT技術の街づくりへの活用」 研究会受託代として</p> <p style="text-align: center; font-size: small;">(2) 領収書の作成を依頼しました</p> <p style="text-align: center;">一般社団法人地方議員研究会 〒532-0004 大阪市淀川区西宮原2丁目6-16-639 TEL 06 (7878) 6297</p> </div>

本紙に収まらないときは、適宜別紙を作成のこと

承	会派会長印	経理責任者印
認		

氏 名 寺崎 孝洋

政務活動費出金票

No. 14-1

発行No. 12003553
表示日: 発行日: 2020年1月14日
Date of display

領収書

下記、正に領収致しました。
This is to certify that IKYU Corp has received the following.

再発行

宛名 魚津市議会 会派 民進 寺崎 様
Received from

金額 金 13,690 円 (税込)
The sum of

但し 宿泊代金として
In payment of ※クレジットカードにて決済

予約番号 IK0448423997
Reservation Number

ご利用施設 東京プリンスホテル
Accommodation

宿泊日 2020/01/13 より 1 泊
Slaying Date

※本様は電子的に保持している領収データを画面表示したものです。
This is an electronic display of receipt date.

 休.com

株式会社 一休
107-0052 東京都港区赤坂3-3-3
住友生命赤坂ビル6階



2020年1月14日

研修報告書

作成者 寺崎孝洋

地方議員研究会 研修会

「ICT技術の街づくりへの活用」 —新たな地域のためのヒント—

日時 2020年1月14日(火) 10:00~12:30

場所 早稲田大学 東京都新宿区早稲田鶴巻 516-1

出席者 寺崎孝洋

内容

内容は、別紙添付資料を参照

所感、考察

講義の冒頭、講師である早稲田大学スマート社会技術融合研究機構、電動車両研究所研究員客員教授の井原雄人氏は、今のICT技術では私たちが思いつくことは何でもできる。ただし、時間とお金を考えなければ、と述べられた。

極端な話であるが、タイムマシンをも作ることは出来ると。ただしこれは活用という事からいうと現実的な話ではなく、ICT技術を各分野で活用するには「時間」「お金」のバランス、現実度と何をICTにさせるのか？を考えながら行わなければならない。特に行政の分野ではシステムを作るときに取り交わされる「仕様書」「契約書」の詳細な詰めが必要であるとも述べられ、自身も同様であると感じた。

この事の例として新潟市の「水田見回り効率化システム」を作成するときの事が紹介された。簡単に言うと、発注者と受注者の間で詳細な詰めを行わなかった事で最初に出来上がったシステム・ツールが十分に機能を果たさなかったというものです。

受注者(設計者)は仕様書の中で「田んぼの水(深さ)」の情報収集と記載されていたのでそのようにシステム作りしたのだが、発注者(農家)は田んぼの水(深さ)の情報収集と書いてあっても、見回りする上では水温、湿度、気温も計って当たり前という感覚でいたところに齟齬あり最初は機能不十分なシステムとなったという話である。

このことから、システム導入前の仕様書作りに際し、何をさせたいのか？そのためにはどんな情報・モノが必要なのか？どのような順番・手順でやるのか？などシステムが肩代わりする業務の紐解きを十分に行う必要があると感じた。特に、多くの行政は忙しさのため、業務の紐解き・業務解析を委託する傾向があるがこれではシステムが使い物になるか？ならないかを大きく左右するとも述べられており、自分も同様に感じた。

また、実際にICT化を考えるときに、過去からのシステム作りのようにカスタムで作るのではなく、世の中に多くあるもの、実績のあるものを十分に使っていき考え方が変わっていく、いるとも述べられていた。たとえば、市民バスのバスロケーションシステムなどでは、多くは独自のスマホ用アプリが作られていたが、いちいちインストール必要のない標準アプリである「グーグルマップ」などにバス位置を表示するよ

[テキストを入力]

うにし、多くの人に使ってもらえる土壌でシステム作りする事などである。

それから、現状認識を変えないと…と思わされたのが「お年寄りにはスマホなんか使わない！」という思い込みです。60、70代の方々は現役時代パソコンを十分使っており、アレルギーは少なく、統計ではその世代のインターネット接続率はパソコンよりスマートフォンの活用が多い結果であるとのこと。自分が持っている感覚・イメージとは異なっていた。

いろんな各地域でのICT事例も配布された資料に記載されているが、いづれにしても今までとは違った視点・価値、そして柔軟な考え方でICTに取り組まなければ、単なる流行に乗ってICT推進しても使わない・使えない・使いにくいシステムばかりが作られ、無駄遣いになってしまうと感じた。そのためにも、行政は今以上の柔軟な意識をもつ必要があると感じた。

以上